

## 東京大学史料編纂所

史料編纂所は、日本前近代（古代～明治維新）史料の編纂を中心事業とする歴史学の研究所です。その淵源は、1793年に国学者<sup>はなわほきいら</sup>塙保己一が江戸幕府の援助を受けて開設した和学講談所にさかのぼります。史料編纂の基礎となる史料調査・収集は、1885（明治18）年から本格的に始まり、その蓄積の上に1901（明治34）年から史料集刊行が開始されました。以後100年余りの活動のなか

で、『大日本史料』・『大日本古文書』・『大日本古記録』・『大日本近世史料』・『日本関係海外史料』などの書目名で刊行された基幹的史料集は総計1000冊を超え、国内外の日本史研究者に活用されています。

近年の日本史研究では、伝統的な文献史料による研究に加え、絵画・絵図・古写真など各種画像史料の研究が必要不可欠な課題になっていますが、史料編纂所では1997年に附属施設として画像史料解析センターを設置し、それらの課題にも取り組んでいます。

また、史料編纂所は上記のような編纂の成果をデータベースとして組み立て直す仕事を行ってきました。現在ホームページ（<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>）で公開されているデータベースは、史料編纂所が所蔵する各種史料の目録情報、日本史上のできごとを網羅した詳細な年表、史料に記されている人名・地名・事項名などの索引、日記や古文書などの史料の全文情報、肖像画や錦絵など絵画史料の画像情報など、約30種類に及び、毎月のアクセス数は130万件を超えています。これらのデータベースは、新しい研究の手段として、歴史研究者や学生・市民に広く利用されるようになっていきます。

史料編纂所ではそれらのデータベースや情報システムをさらに充実させるため、2006年4月、前近代日本史情報国際センターを新設し、歴史情報分野の新しい研究開発を始めています。



### 《1階ロビー展示》

書庫に収蔵されている国宝（島津家文書）や14件の重要文化財史料の一部のパネル展示や、史料保存技術室の4つの業務（修復＝痛んだ史料の修理、影写＝文字史料の複製、模写＝画像史料の複製、写真＝史料の撮影）の紹介を行っています。

\* 蝦夷地絵図（重要文化財 近藤重蔵関係資料より）

なお、現在、本所建物の別館部分は、耐震性能不足への対策のため、部外者の立ち入りを制限しております。